

# じゅしゅう

## 秋季彼岸会 厳修

九月二十三日、秋のお彼岸中日に当たるこの日に、浄覚寺の「秋季彼岸会」をおつとめさせていただきました。朝晩は暑さが少し落ち始めてきましたが、昼間はまだまだ汗ばむ中でのご法要となりました。

ご法話の講師には奈良県より和氣秀剛先生をお迎えしました。実は住職と同級生だった先生は、親鸞聖人の『教行信証』から「念仏の衆生は、横超の金剛心を窮むるがゆゑに、臨終の夕べ、大般涅槃を超証す」とご讚題にいただかれました。「横超の金剛心」とは浄土真宗の信心のあり方を示された言葉ですが、それに

いってYouTube「浄覚寺チャンネル」にてお聴聞いただきたいと思えます。さて、先生はお悟りの世界である彼岸と私たちの生活の場である此岸があり、その此岸を見つめると、お悟りではない世界であり、苦しみの世界なのだと言われます。生老病死を代表とする、私に具わった、逃れることのできない苦しみに。けれど、知識としては当たり前に知っているのに何故苦しんでしまうのでしょうか。それはこのままの自分では嫌だ、変わりたい、と思ってしまうからであり、尚且つ、変わろうとすることに結局は変わることができ

ないので苦しむのです、と教えていただきました。仏教の教え、阿弥陀さまのはたらきは、この苦しみのメカニズムを教えてもらえることなのです。もちろんそのメカニズムが分かっただからといって、私が素直に変わるわけではありません。なかなか受け入れられない私の姿、超えられない大きな壁がそこにあります。けれども、阿弥陀さまは私を見放すことも、無理に変わらそうともされませぬ。一緒に壁を乗り越えていこうと、寄り添ってください。さるお慈悲の仏さまであります。此岸の苦しみの中で生きる私に、彼岸から南無阿弥陀仏のお念仏となつて私に届いていてくださる。それが浄土真宗の他力の信心なのです。

第54号  
(通算394号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

### 浄覚寺ヨガ教室

- ・10月18日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆ヨガマットの無料レンタルもあります。お友だちをお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

YouTube  
浄覚寺チャンネル

<https://youtu.be/qajXmfYntv8>



信心すなはち一心なり

一心すなはち金剛心

金剛心は菩提心

この心すなはち他力なり

親鸞聖人『高僧和讃』



# 御文章に聞く(第47回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸浄圓著 本願寺出版社

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。前回から「八万の法蔵章」を読み始めました。タイトルにもなっている八万の法蔵とは何でしょうか。註釈には「釈尊の説かれた教法全体のこと。八万は多数をあらわす。」とありました。お釈迦さまのご説法は「応病与薬」

**八万の法蔵章(五帖第二通)**  
 それ、八万の法蔵をしるといっても・後世をしらざる人を愚者とす、たとい一文不知の尼入道なりといども・後世をしると智者とすといえり、しかれば当流のこころは・あなたがちにもろもろの聖教をよみ、ものをしりたりというとも・一念の信心のいわれをしらざる人は・いたずらごととなりとするべし、

(病気に応じて薬を与える)といわれています。それは人びとの悩みや能力に応じて、さまざまに教えを説かれたからでした。その数の多さを昔から「八万四千の法門」と言い伝えてきたのです。ですので「八万の法蔵をしる」とは、仏法全体を学ぶ尽くすほどのことを意味していたのです。お釈迦さまがお説きになられたご説法で、中国に伝えられて、漢文に翻訳された大乘経典だけでも「六百三十七部、二千八百八十三卷」もあるといわれています。さらに「経」を解釈した「論」や「釈」などを加えると膨大な数になります。これを学ぶと膨大な学力は言うに及ばず、大変な気力と根気を要することは容易に想像できます。ところが蓮如上人は「八万の法蔵をしるといっても、後世をしらざる人を愚者とす。」と言われるのです。

# 仏教語辞典



円空

江戸時代初期の臨済宗の僧侶で、諸国を遍歴し布教の旅をしながら製作し続けた。生涯に十二万体の仏像を彫ったといわれている。六十四歳で亡くなったので、単純計算で一年に二百体も造っていることになる。

『気になる仏教語辞典』  
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

# 編集後記

今月も「じゆこう」をお届けいたします。彼岸会を無事に勤めさせていただきました、嬉しく思います。一人でも多くの方にご参拝いただきたく、次の永代経法要はご予定をいただき、彼岸会のご講師、和氣先生はカナダで生まれ、カナダ人として英語を使い生活していただくと。小学二年生の時に突然日本へ帰国し、それから日本としてみれば、日本語の読み書きがまったくできない状態に陥ってしまったので、小学二、三年の担任の先生が必死に自分のために働きかけてくれたおかげで、いつのまにか困ることなく日本で生活することができるようになりました。阿弥陀さまの慈悲と重ねて味わっておられました。(釋法道)

# 行事案内

日時・十月二十一日(土) 十四時・十九時  
 行事・永代経法要  
 法話・安方哲爾先生(大阪)  
 場所・長原浄覚寺

(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

ご法要にぜひご参拝いただきますよう、ご案内申し上げます。法要参拝の肝要は自分自身が仏法を聞かせていただくことです。聞き続けていく間に仏法の大切さ、必要性を感じ取っていきます。自分にとって良いものと感じるからこそ次の世代に勧めていくことができるのです。運営のためにお手伝いをお願いすることもありますが、まずはご自身のためにご参拝、お聴聞いただきますよう、伏してお願ひ申し上げます。